

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
350019	X-21-B-3-350019			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	選択 選択 選択 × × ×	1年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
国際組織論	山田 裕史						

授業目的

20世紀から21世紀初頭の今日に至るまで、多くの国際組織（国際機構）が成立し、それらを通じた国際協力の枠組みが整備されてきました。その背景には、国家間の結び付きの緊密化やグローバル・イシューの増加、さらには主権国家のみならず市民社会が国際関係に広範に参画するようになったことなどが挙げられます。

国際組織にはどのような種類や特徴があり、国際社会の共通課題に対してそれぞれどのような取り組みを行っているのでしょうか。本講義の目的は、国家間あるいは政府間でつくられる政府間国際機構（IGO）や非政府間機構（NGO）の沿革、組織構造や意思決定の仕組み、法的な主体としての性格などを学ぶとともに、これらの国際組織が取り組む課題領域（紛争と平和、貧困と開発、人道支援、環境と開発、民主化支援など）に注目し、国際組織がどのような役割を果たしているのか、その機能を理解することにあります。

また、ディプロマポリシーとの関連では、本授業は国境を越えた個別具体的な問題への認識を深める国際教養の体得に資するものと位置づけられます。

各回の授業内容

第1回	【授】 イントロダクション：国際組織とは？ 【前・後】 【必要な時間：4時間】テキストの序章を熟読しておくこと	第9回	【授】 ドキュメンタリー鑑賞とグループ・ディスカッション（2）：武装解除・動員解除・社会復帰（DDR） 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第6章を熟読しておくこと
第2回	【授】 国際機構と国際機構論 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第1章を熟読しておくこと	第10回	【授】 「帝国」の解体 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第7章を熟読しておくこと
第3回	【授】 現代国際社会における国際機構 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第2章を熟読しておくこと	第11回	【授】 地域的国際社会の組織化 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第8章を熟読しておくこと
第4回	【授】 近代国際秩序の形成と国際機構の萌芽 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第3章を熟読しておくこと	第12回	【授】 国際秩序と国際機構の関係 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第9章を熟読しておくこと
第5回	【授】 國際連盟と國際連合 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第4章を熟読しておくこと	第13回	【授】 國際法体系の中の国際機構 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第10章を熟読しておくこと
第6回	【授】 国家間の戦争防止 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの第5章を熟読しておくこと	第14回	【授】 グローバル化の進展と国際機構 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、テキストの終章を熟読しておくこと
第7回	【授】 平和維持活動から平和活動へ 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に配布する文献を熟読しておくこと	第15回	【授】 国際機構と国際機構論の課題と展望 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、これまでの復習をすること
第8回	【授】 ドキュメンタリー鑑賞とグループ・ディスカッション（1）：国連PKO 【前・後】 【必要な時間：4時間】前回の講義ノートを見直しておくとともに、授業中に配布する文献を熟読しておくこと	第16回	

成績評価方法

期末レポート（70%）と授業の際のコメント・ペーパー（30%）を合わせて総合的に評価します。

コメント・ペーパーに対するフィードバックとして、授業中に補足の解説や質問に対する回答を行います。

教科書・参考書

山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018年

各テーマに応じたレジュメや資料を授業中に配布します。また、本講義でとりあげる各テーマの概要を把握するために、次の4点を参考書として挙げます。

- (1) 最上敏樹『国際機構論講義』岩波書店、2016年
- (2) 内田孟男編著『国際機構論』ミネルヴァ書房、2013年
- (3) 明石康『国際連合——軌跡と展望』岩波新書、2006年
- (4) 滝澤美佐子・富田麻理・望月康恵・吉村祥子編著『入門 国際機構』法律文化社、2016年

受講に当たっての留意事項

専門科目であるため、政治学、平和学、国際関係論、世界史（近現代）など関連する基礎科目を履修済みであることが望ましい。

受講者には、テキストや資料を精読することや、グループ討議・発表での発言など、事前の準備と授業内での議論への積極的な参加が求められます。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

学習到達目標

- (1) 国際組織の沿革、組織構造や意思決定の仕組み、法的な主体としての性格などを理解する。
- (2) 単独の国家での取り組みには限界のあるグローバル・イシューにおいて、国際組織がどのような役割を果たしているのか、その機能を理解する。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習